

## 漢字の体系的学習とは

漢字の大部分は、部首と呼ばれる部品の組み合わせによってできています。たとえば、当用漢字は全部で 1850 字ありますが、それに使われている部首は全部合わせても 192 個しかありません。つまり、192 個の部品が、いろいろに組み合わせられて、1850 字の漢字になっているのです。

だから、192 個の部品の持つ意味や性格を、その本質からよく理解していくなれば、1850 字の当用漢字はもちろん、それに数倍する量の漢字の意味、読み方まで大よそ推察することができるのです。

たとえば、“整”という漢字について考えてみることにします。この字は、<sup>ソク</sup>“束”・<sup>ボク</sup>“女”・<sup>セイ</sup>“正”の三つの部品によって組み立てられていますが、さらに“束”は<sup>木</sup>と<sup>口</sup>(輪の形)“女”は<sup>文</sup>(手)と<sup>ノ</sup>(棒またはむち)、“正”は<sup>止</sup>(足の形で、とどまる意味)と<sup>一</sup>(線)と、それぞれ二つの部品によってできています。

<sup>束</sup>は、木に輪をかけて“たば”ねたことを表わしています。<sup>女</sup>は、手に棒を持って“たたく”ことを表わしています。<sup>正</sup>は、止まるべき線に止まっていること、つまり“ただしい”ことを表わしています。ですから、“整”という字は、「木を束ねて、不ぞろいになった所を棒でたたいて、きちんと正しくする」ということを表わしていることが、その部首によって正しく汲み取れるのです。しかも、この字の発音は、<sup>セイ</sup>正であることま

で、わかるのです。

漢字は、字形が複雑で、機械的にただがむしゃらに覚えようとしたら、確かにむずかしいものと言わなければなりません。しかし、その部品を一つ一つ理解して、これを論理的に学習するなら、これほどやさしく、楽しく覚えられて、しかも忘れようとしても忘れられない文字は他にありません。

整という漢字を、試みに和英辞典により翻訳してみますと、

to put (things) in order

に当たることがわかります。to put は“女”という意味に当たります。

“束”は、英語の things に当たります。order は全く正と同じ意味です。

漢字は、ローマ字のアルファベットに当たるものと考えから、複雑であり、むずかしいと誤解されているのです。漢字は、少なくとも英語の word に当たるものであり、時には「整」のように、数個の単語の集合体にさえ当たるものがあるのです。

このように、漢字を、その本質から考えていきますと、むずかしいどころか、世界一やさしく、機能的にもこれほどすぐれている文字は他にないことが、よくわかりいただけると思います。また、漢字の学び方も、その本質に根ざした“科学的”“論理的”な学習法でなければならぬことも、ほぼわかりいただけると思います。